

2023年 7月 13日

## 2022年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人ぶどうの家わたぼうし  
代表者・役職名 氏名 代表理事 武田 直樹

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

演劇手法を用いた要配慮者の避難行動支援ワークショップ

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2013年に近隣住民に対して、地域の福祉拠点を創設し、地域で生活するために必要な地域生活サポートを行うことで、自分たちで支え合う地域社会を目指し、住みやすく温かなまちづくりと福祉の増進に寄与することを目的として創設しました。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

平成30年7月の西日本豪雨により被災した倉敷市真備町では、死者51名うち45名(約88%)が65歳以上の高齢者で、逃げ遅れゼロを目指すには、「高齢者の避難行動」と「認知症への理解」が必要と強く感じました。その為には日頃からの「地域住民どうしの繋がり」が大切ですし、災害も認知症の問題も「一人一人が我が事」としてとらえ理解を深めなければなりません。ここに演劇の手法を用いることで、さらに理解が深まることを狙いにしています。そして、真備町内の7地区でそれぞれに地域連携型要配慮者マイ・タイムラインの必要性を広めたいと思います。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ① 高齢者が持つ「自分が避難することで他人に迷惑をかけたくない。」という気持ちを理解し、高齢者(認知症)との適切な対話・対応方法について学ぶために、地域住民をはじめ多世代から広く参加者を募り、高齢者の避難について理解を深めるワークショップを合計5回実施しました。
- ② 最終日の6回目は「地域連携型要配慮者マイ・タイムライン」の必要性を理解し、高齢者避難は個人の問題ではなく地域で取り組む必要があることを、メンバーだけでなく観客として参加した地域住民と一緒に、理解を深めていく体験型の発表会を開催しました。。
- ③ ワークショップの内容を録画し記録を残しました。アンケートを実施し有効性を検証しました。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

ワークショップを5回開催し延べ100名の参加者があり、最終日の発表会は39名、振返りの会は15名の参加でした。

演劇ワークショップでの疑似体験を通じて高齢者の避難は他人事でなくなり、地域全体で取り組むべき課題であるとアンケート結果が見られました。また、1地区では演劇手法を用いて「地域連携型要配慮者マイタイムラ

イン」の講座を行い、参加者から「演劇になったことでよりリアルに感じ、認知症高齢者の避難においては、地域の日頃の繋がりが必要と思いました」との感想でした。さらに演劇ワークショップの活動が発展し国土交通省の普及事業である「地域連携型要配慮者マイ・タイムライン」DVD作成にも活用され全国の防災・減災活動の普及に協力することもできました。

## 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

「防災」「認知症」ともにマイナスイメージが大きいのですが、1地区で行った講座は予想以上の高評価でした。それは、座学ではなくワークショップという形式が地域の住民にとっては受け入れやすい手法だったからだと思われます。今後はこのワークショップの形式を地域に広げていくことが課題です。また、真備町以外でも近年災害が多発しておりこの「人とのつながりを大切にする考え方や手法」を伝えるには、継続した運営のできるコーディネート機能が重要で、それに伴う人の確保が不可欠です。また、ワークショップを運用する費用等も必要です。そのための運営できる仕組みづくりに苦慮しています。

## 7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



(真如苑「市民防災・減災活動公募助成」を受けて実施します)

# 「老いと演劇」 ワークショップ 《第3弾》

超高齢社会や防災の課題に、「演劇」という切り口で挑む。  
年齢や演劇経験は不問で、だれでも気軽に参加できる内容です。

**受講者を募集します**

■会場：ぶどうの家 BRANCH (住所：倉敷市真備町辻田 197)

■日時：**2023年1/12**

・・・14:00～16:00

**2023年1/26, 2/2, 2/16**

・・・13:30～15:30

**2023年2/23**(最終日の午後は発表会)

・・・10:00～15:30

■参加：無料 (どなたでも参加できます) ⇒要申込(定員 20名)

■申込み・問合せ：ぶどうの家 BRANCH (津田・西澤・杉原・山形・林)

⇒ 氏名、住所、TEL(携帯)、メールアドレス(あれば)を明記して次まで

MAIL: budoubbranch@gmail.com

TEL: 086-697-5255 FAX: 086-697-5256

■講師：**菅原 直樹**(すがわらなおき)さん

劇作家、演出家、俳優、介護福祉士。認知症ケアに演劇的手法を活用した

「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。

動画「岡谷さんのマイ・タイムライン」の演出・脚本。

「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰。

認知症や防災について、

演じるなかで、自分ごととして考える。

理解を深めていく……。

よりよいまちづくりにつながる。



「老い」とか「認知症」とか言うても、100人居れば100の「物語」  
があって、一つとして同じものはねえ。じゃから、おもしろえ。どれも  
「演劇」になる要素を持つとる。ある意味、みんな、「役者」じゃと思  
うなあ。いっしょにやろうや。待っとるで。

■ テーマ ■

「認知症」と「防災」に  
「演劇」を切り口にアプローチする

「認知症」×「防災」×「演劇」

その心は

「認知症」とかけて  
「防災」と解く

どちらも「つながり」が大事

「老い」や「防災」の課題に、「演劇」という切り口で挑む

# 「老いと演劇」

## ワークショップ

《第3弾》

# 受講者 発表会

ワークショップ成果を観てもらいます

■日時：2023年 2月23日

13:30 開場 14:00 開演 ~15:30

■会場：ぶどうの家 BRANCH (住所：倉敷市真備町辻田 197)

■参加：無料 (どなたでも参加できます)

■申し込み：ぶどうの家 BRANCH (津田・西澤・杉原・山形・林)

氏名、住所、TEL (携帯)、メールアドレスを明記して次まで

⇒ MAIL: budoubranch@gmail.com

⇒ TEL: 086-697-5255 FAX: 086-697-5256

■講師：菅原 直樹 (すがわらなおき) さん

劇作家、演出家、俳優、介護福祉士。認知症ケアに演劇的手法を活用した

「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。

動画「岡谷さんのマイ・タイムライン」の演出・脚本。

「老いと演劇」OiBokkeShi 主宰。

認知症や防災について、

演じるなかで、自分ごととして考えるように

なっていく。理解を深めていく……。

それが、よりよいまちづくりにつながる。



「老い」とか「認知症」とか言うても、100人居れば100の「物語」があって、一つとして同じものはねえ。じゃから、おもしろえ。どれも「演劇」になる要素を持つてる。ある意味、みんな、「役者」じゃと思うなあ。いっしょにやろうや。待つとるで。

■ テーマ ■

「認知症」と「防災」に

「演劇」を切り口にアプローチする

「認知症」×「防災」×「演劇」

その心は

「認知症」とかけて  
「防災」と解く

どちらも「つながり」が大事